慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	津田利治先生追悼記
Sub Title	
Author	内池, 慶四郎(Uchiike, Keishiro)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1999
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.72, No.6 (1999. 6) ,p.103- 104
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	津田利治先生追悼記事
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19990628-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

津田利治先生追悼記

去る二月二五日、恩師津田利治先生が鎌倉由比ヶ浜のご自宅で逝去された。享年九四才のご高齢であり、かねて覚悟していたことながら、その日が来てみると長年にわたってお教えをたまわった一弟子として言いようもない虚脱感と寂寥の念を禁じ得ない。先生が亡くなられた今、道半ばにして暗夜に導きの星を失った気持ちがする。

学部学生の時代より定年退職後の現在に至るまで、手を取るように法律学をお教え頂いてきた記憶を振り返ると、あまりに多くのことが脳裏を去来して到底何も書くことが出来ない。子が他人に父のことを語ることが難しいように、私には先生のことを語ることは難しい。

あえて言うならば、先生は私にとって慶應義塾そのものであった。先生を通じて慶應義塾に学ぶことの幸福を知った。先生の学問に惹かれて学校に残った。三田や日吉の教室や研究室あるいは鎌倉のご自宅を問わず、先生のおいでになる処には常に眩しいほどに爛漫たる学園があった。

不出来な学生を、教壇の高みから軽蔑の目で見下したことのない先生であった。私を含めてどんな不勉強な学生の稚拙な質問にも、先生はいやな顔一つなさらず常に親切丁寧に答えて下さった。侃侃諤諤たる議論に閉口して教室から逃げ出そうとする不心得な学生を、追いすがって教えられた先生であった。

学校に残ってからも、先生は一視同仁、わが弟子とか他人の弟子とかいう区別のなかった方であった。先生は、いかに鈍器非才の後進後輩も、ともに学問の道を手を携えて歩む同朋として、「本当の弟子」として扱われる「本当の師」であられた。

先生の最後の著作となった『横槍民法総論』の栞に、師と弟子との関係について、次の一節が引かれていたことを思い出す。「見　師と斉しければ　師の半徳を減じ知　師を過ぐれば　方に伝授に堪えたり」と。

ここに見られるのは、ともに真理に向かって歩みを進める師弟なればこその、師の弟子に対する厳しい期待と要請であろう。そしてそれと同時に、ともに求める道に迷い悩む研究者としての師の側における優しく謙虚な人間のありかたを、師の弟子に対する無限の慈悲を、先生はこの一句に読み取られていたのであろうか。今となっては、先生にそれを伺う機会もない。

先生　安らかにお休みください。

平成一一年三月一一日

名誉教授　内池慶四郎